

令和5年度第1回 千葉市自殺対策連絡協議会 議事要旨

日時：令和5年5月25日（木）10:00～12:00

場所：千葉市役所新庁舎XL会議室201（会場とZOOMのハイブリッド開催）

出席者（委員15名中12名出席）

（会場参加者）淑徳大学 千葉 浩彦委員、（一社）千葉市医師会 浅野 誠委員、（福）千葉市社会福祉協議会 初芝 勤委員、千葉市民生委員児童委員協議会 木之内 富士夫委員、（福）千葉いのちの電話 斎藤 浩一委員、（一社）日本産業カウンセラー協会東関東支部 大槻 敏子委員、（一社）千葉市老人クラブ連合会 渡辺 弘委員、千葉市小学校長会 佐藤 典子委員、千葉労働基準監督署 石井孝雄委員代理、（ZOOM参加者）千葉県警察千葉市警察部 徳山 義将委員代理、（公財）千葉市産業振興財団 米森 尊子委員代理、千葉県弁護士会 常岡 久寿雄委員

事務局：高齢障害部 白井部長、精神保健福祉課 小倉課長、こころの健康センター 稲生所長

（1）委員長、副委員長の選出について

委員の互選により淑徳大学総合福祉学部長の千葉委員が委員長に選出され、委員長の指名により千葉市社会福祉協議会長の初芝委員が副委員長に選出された。

（2）全国及び千葉市の自殺の状況について

資料3により事務局より説明

千葉委員長

全国と千葉県、千葉市の状況、及び千葉市で行われたWEBアンケートの詳細な分析ということでしたがどんなことでも結構ですのでご質問をお願いします。

木之内委員

民生委員の木之内です。今御説明いただいた資料の15ページのWEBアンケートで回答者数1,512名と記載がありますが、回答された方を何か特定しているのでしょうか。任意で答えた方ということでしょうか。

事務局（小倉課長）

はい、完全に任意の方です。自発的に千葉市の政策についてアンケートにお答えいただいた方ということです。

千葉委員長

千葉市の方で千葉市民に対してアンケートの協力を呼び掛けていて、それに応募して下さった人たちということで、もっと以前からやっているけれどもこの参加人数が年々増えてきているということですね。

事務局（小倉課長）

そのとおりです。

千葉委員長

もちろん千葉市民の人口に比べればサンプリングとしては非常に少ない数字なので、特にその推移については必ずしも数字のままに読むことができない部分もあるかも知れませんが、関心をもって答えて下さっている方々の答えですので、内容については参考になるのかなと思います。

事務局

事務局から少し補足します。WEBアンケートに関しましては、千葉市のホームページで年に2～3回程度アンケートを実施しておりますが、実施の時期はまちまちです。この自殺関係のアンケートに関しましては毎年実施しており、回答者数の推移としては平成30年が500人位、令和元年が700人位、令和2年か千人位、令和3年が少し下がって900人位、今回の令和4年度が1,512人と増加傾向にあります。実施の時期等によって、回答者層も変わってくるようなところがあるようで、回答内容も若干バラつきが出やすい傾向にあるかなと見ております。

千葉委員長

千葉いのちの電話の斎藤委員さん。最前線でご相談を受け付けていらっしゃる日頃の感覚からして、報告された数値をどう思われますか。あるいは感想や質問があればお願いします。

斎藤委員

昨年度ですと、私ども千葉いのちの電話で受けた電話総数は約1万7千件ということになっており、ある程度傾向とか年齢層等、大まかな分析をさせていただいておりますが、大体概ね今ご説明があったような内容になっていると思います。先ほど、悩みの原因がコロナに「関係ない」「あまり関係ない」と答えた方が多いというのがありましたが、私どもの相談件数としてもコロナ関係は減っております。ただし、女性の方の相談内容で増えているのが人間関係で、「夫さんとの関係がうまくいかない」とか、（コロナのため）家庭内で仕事されるようになってそれが大変だとか、そういう軽い愚痴めいたものから、中には本当に深刻な「出て行きたい」というような相談が目立っております。ですから、今年度の大綱が反映されるということですが、特に女性の方で、一人親さんとか、逃げ場がなかったりする方に対してのケアといいますか配慮は必要だと感じております。

千葉委員長

ありがとうございます。データに関しては日頃の感覚と一致しているということですね。他の先生方はいかがでしょう。

大槻委員

産業カウンセラー協会の大槻と申します。宜しくお願い致します。

私どもはこころと命の相談室を平成24年から担当させていただいておりますが、今ご説明いただいた中で私どもが日頃から相談を受けている相談の内容と来談する年齢層は本当に一致しているなと思いました。実際に来談する方が直接死にたいという人ばかりではないので、そこはいのちの電話さんと少し違っているかも知れませんが、やはり希死念慮を持っている方が来談されることはあります。そういう中で一番相談が多いのは仕事のことでですね。男性も女性も仕事の相談がとて多くなっています。それはずっと続いています。

それから仕事とともにメンタル的な問題を抱えている方もとても多く、やはり一つのことではなくて、色々な問題が複合的に重なって、相談にきています。

それから、先ほどのWEBアンケートの結果のところですが、これを見ても1,512人ということで年々このアンケートに回答する方が増えてきているということは、本当に市の取組に関心を持っているという事が伺えるのかなと思ったのですが、それと同時に区毎の回答者の数に大きな差があり、若葉区が8.2パーセントで、美浜区が25.6パーセントですか。大体3倍近い差がありますが、これは何かこの区に居住している年代とか高齢者の人口とかが関係するのかなとか考えたりしました。高齢者の方だとなかなかWEBの方を見ない方が多いとか。

色々な形で相談先を周知していただけたらいいなと本当に思っております。何かあった時にここに行けば相談できるんだ、ここに相談すればなんとか繋がるんだということのを是非これからも作っていただきたいと思います。

千葉委員長

ありがとうございます。その他いかがでしょう。

佐藤委員

小学校長会の佐藤です。宜しくお願い致します。

WEBアンケートの結果についてで、資料のp17の（「これまでに「死にたい」と思うほどの悩みやストレスを感じたことがありますか。」という質問）に対して10代の2人が「学校問題」と回答しています。小中学校の児童生徒の暮らしの場として家庭と学校が多いのかなというところが結果に反映していると思うのですが、中学校、高校位になると、学校問題のなかでも進路や進学に関すること割と大きくなるのかなと感じています。文科省の小学校に関する調査によると、学校というよりは家庭問題や原因がよくわからないという悩みを抱える子どもたちが多くなっています。

千葉委員長

ありがとうございます。浅野委員どう思われますか。

浅野委員

色々なデータからお分りの通り、一番気になるのは数としては少ないですが子どもさんが増えている。また、女性が増えています。私はクリニックをやっていますが、もちろん希死念慮を抱えた方が沢山いらっしゃいます。統計的にはわかりませんが、美浜区の方が多い印象があります。受験とか色々な問題がありますが、子供たちが扱う情報量がものすごく多くなった。習い事、宿題いっぱいあります。なんとなく縛られているかなと。学校に行くと同級生に会いたくない。昔は学校以外でちょっと上級生とか下級生がまぜこぜになったような環境があったけれども、今はそういう環境が地域に全くなくなってきて、そういう影響が大きいように思います。やはり、もう少し子供たちの場所づくりが大事なかなと思っています。

あと女性が多いのは色々な理由がありますが、社会的な負担が少しずつ増してきていることも背景にあ

と思います。いずれにしても、ネットでは繋がっていますけれども、なかなか人と人とのリアルなコミュニケーションが作れないので、やはりコミュニティで対応するというのが大事なように思います。

千葉委員長

ありがとうございました。

データにとどまらず現場の実情とか政策の在り方についてもご意見をいただきました。

それではこの辺で次の議題に入らせていただきます。

議題の「(3) 千葉市自殺対策計画の見直し(案)について」事務局からご説明をお願いします。

(3) 千葉市自殺対策計画の見直し(案)について

資料4により事務局より説明

千葉委員長

ありがとうございます。只今の自殺対策計画の見直し案についてのご質問等がありましたら挙手をお願いします。

斎藤委員

千葉いのちの電話の斎藤です。質問ではなくどちらかというお願いなのですが、評価指標の中でもご説明がありましたが、p11の評価指標 No3-1 の取組で、ゲートキーパー研修の受講者数の増加ということで、現状460人まで増えているということで努力されていると思います。私の考えでは(自殺対策として)一番手っ取り早く簡単にできるのはゲートキーパーの数を増やすことだと思っています。私どものような相談窓口をたくさん作って、相談を待つのも大事なことなのですが、職場とか教育環境とかで、ちょっとした異変に気づくのはやはり隣にいる人たちですね。そういう時に、例えば同僚の方が「ちょっと最近食欲ないんじゃない?」といったふうに言ってあげることが解決に繋がる非常に有効な手立てではないかというふうに思っていますので、この取組はどんどん進めていただきたいと要望致します。

千葉委員長

ありがとうございました。ゲートキーパー研修についての拡充を注視したい。とのこと。私も同意見でゲートキーパー研修というものの数を増やすこと自体が目的ではないのですが、死にたいと言うような気持ち、あるいはそういう気配に気が付いたときにどう対応するのかということが非常に重要なことで、普通常識ですと「そんなこと言わないで」と制するような関わりが予想されるのですが、そうではなく、まず話を親身になって聴いていく、そして寄り添って誰かに繋げていくという役割がゲートキーパーです。若年層と女性に対して特に焦点があたっていますが、例えば小学校の先生でしたら、通常の教員の研修の中のうちの一項目として実施し、日頃からそういう対応が浸透する環境になればよいと思います。このように、研修の数が増えるかどうかは大事ですが、実際に様々な職場、様々な業種の人達の中でゲートキーパーが増えていくような展開をお願いできればと思います。

千葉委員長

他にご質問やご要望はありますでしょうか?

佐藤委員

小学校長会佐藤です。今、委員長の方からゲートキーパー研修をとということがありましたので、子供たちのゲートキーパーということで言うと、学校の教職員は変化に気付きやすいので、ぜひ進めていけたらと思います。それに加えて、今の千葉市立の学校には普通学校にも養護学校にもスクールカウンセラーを全校配置しています。中学校では相談件数は大変多く、配置時間数も多いのですが、小学校は全校配置になったものの、学校規模により週に1回3時間の配置校があります。週に1回3時間ですと、実際は、予約がとりづらかったり、子どもたちは授業を抜けて相談に行くのに気が引けたりすることもあります。予算の問題もあり難しいと思うのですが、現場としては、心理の専門のカウンセラーの配置時間数がもう少し増えるとありがたいのと、もう少しうまくスクールカウンセラーを活用できるというなと思っています。

千葉委員長

ありがとうございました。

その他いかがでしょうか?

初芝委員

先ほど資料の指標の見直し p14 のところで、「ふれあい・いきいきサロンの実施回数の増加」というのがありますが、実際コロナの影響がかなり大きく利用者数が激減しており、それは致し方ないことなのですが、直近では再開しているところが増えてきています。コロナ禍で特に一番やりづらかったのが食事を伴うサービスでしたが、今後は個々に地区部会さんの力をお借りして増やしていこうということで、

この計画に則って進めていきたいと思っております。

また、先ほど浅野委員からお話がありましたが、つどいの場所がどうしても少なくなっているということで、高齢者の孤立という問題もありますし、また社協の方ではとにかく高齢者に目が向きがちですが、世代間交流というのも今丁度進めているところです。例で言うと、子どもの習字の書き初めの宿題をおじいちゃんが手伝うみたいなそういう交流的なサロンをやったりして、そのサロンの中身の見直しも考えています。

そういった今までなかなか足が向かなかった方も、足が向くような新しい企画を考えながらサロンの開催に努めていきたいと思っています。

また、もう一方で、先ほどの統計にも出ていましたが、相談をしないという方がかなり多い。もちろん周知していますが、周知しても相談しない方がやはりいらっしゃる。そうするとやはり周りの方が気づいてあげることが必要なので、隣の人がつないで民生委員が個別に訪問したりしています。我々社協としては民生委員の地区部会と連携した区の社協事務所にコミュニティソーシャルワーカーが直接その地域に出向いて、その地域の問題を発掘してくる、そして問題解決のために色々な機関と連携するという形で動いております。直接的に自殺対策ということではないかもしれませんが、幅広く地域の問題を解決できるようになればと思っています。

千葉委員長

ありがとうございます。

今話題になりましたけれども民生委員の木之内委員何かありますか？

木之内委員

民生委員の木之内です。今、千葉市からの依頼で毎年5月から8月、我々の大きな活動として、75歳以上の後期高齢者の健康確認と家族構成とか、それから追加として何か悩みがあれば言うことを調べることになっております。私が今回調査するのは実は250世帯もあり、これは2人分やっているために多いわけです。コロナ禍の時は民生委員の訪問そのものを控えるというか、実態調査を中断しておりました。再開したのは、令和4年の調査からです。令和4年の印象で申し上げますと、高齢者の方の外出自粛、人との接触自粛ということで、その前は平成31年の調査でしたが、その時に比べると結構体力気力が落ちている方が多かったと思います。

あともう一つの特徴として千葉市はベッドタウン的なところがあるのですが、定年退職年齢の65歳引き上げに伴って、退職するまでに地域との接触をしない男性、これが非常に多くなっていると思います。定年を迎えて、ハッピーリタイアメントで退職の時は皆でおめでとうございます、ご苦労様でしたと言われるのですが、昨日までは職場の同僚と時間潰しできたが、退職して家に居ると男性はそれまでに地域デビューしていませんので、はてどうしようと引きこもる。非常にそういった定年退職後の引きこもりの男性が増えているということを実感しています。だいたい我々が訪問して対応してくれるのは奥様の方が多いです。多分、3/4は奥さん。男性の方は出てきてくれない。奥様は結構地域にずっと慣れ親しんで、買い物にも行かなければいけないということで地域デビューをやっているの、女性の高齢者の場合はあまり心配ないと思っています。

あと、もう一つわれわれの欠点ですが、高齢者のところと子供のところ。子供は乳幼児から小学生ぐらいまでのところの家庭とは繋がりがありますが、真ん中の勤労者世代は繋がりがあまりなくて、どんな状況なのか正直分かってないというのが現状です。私も民生委員になってから千葉市社協さんがやっている心配ごと相談所の相談員もやっておりましたが、この心配ごと相談所には、常連さんもいますし、長くお話を聞いて欲しいという方も多くおられて、結構悩んでいる方が多いなというのを感じました。また、相談を受けてから、その地域の民生委員に「この方から相談があったから行ってね」と繋ぎたいところですが、個人情報の関係から難しく、相談を受けた事案をさらに一歩進めて積極的に活動ができるようにして欲しいなと思います。

あと私は去年の夏、自殺未遂の案件に遭遇しました。ゲートキーパーと言っても非常に大変だなというふうには思っています。以上です。

千葉委員長

ありがとうございます。

その他、見直し案についてのご意見はございますでしょうか？

大槻委員

見直し案というところに繋がらないのかも知れませんが、私どものところと命の相談室には10代から様々な年代の方々が相談に見えるのですが、70代の方も4.6%ぐらいの方が相談に来ています。そういう方の話を聞いていますとどこか別の場所に相談したことはないと言う方がとても多いことに気づかれます。千葉市だけでなく県でも国でもそうだと思いますが、相談先の情報は本当にたくさんあるにもかかわらず、その情報を取り入れ切れていないという人がいるということをととても感じる。本当にこのきめ細かに色々情報を提供していても、そこからこぼれてしまう人をどうしたらいいのかということをつつも思う。これは内閣府が試験的に行っていた孤独孤立支援の相談に参加したとき、そこに電話を

かけてくる方にもやはりそういう傾向があって、こぼれてしまう人をどうやって救い上げていくか、繋げていくかということがとても難しく、課題なのかなということを感じています。

千葉委員長

一番難しいところかも知れませんね。

今の話ですが、例えば千葉市の広報の方ではどのようにアプローチしているのでしょうか？

事務局（小倉課長）

相談窓口につきましては継続的にホームページ等に掲載して、あとはさまざまな場面で周知啓発をしております。直近の例では、ちょうど歌舞伎俳優が自殺未遂をしたというニュースが流れました。これに関して、最近、報道機関の自殺についての報道のあり方が変わってきたというふうに皆さんお感じではないかと思うのですが、これは自殺対策基本法に基づく指定法人 JSCP という団体が各メディアに対して自殺に対する報道に十分注意してほしいと、具体的には、直接的に詳しい自殺の動機、経緯、やり方であるとかそういったものを報道することによって一般国民の自殺の呼び水になってしまう可能性があることから、このような報道の仕方は避け、はっきりと自殺という言葉を使わなかったり、あるいは必ず相談窓口についての案内を出すようにするよう依頼しているという動きがあります。本市においても何らかの著名人の自殺、あるいは何らかのニュース性のある自殺が発生したときは、千葉市のホームページのトップページのところに相談窓口がありますよという案内を出したりしています。また、SNS、ツイッター、フェイスブック、そういったツールもありますので、そちらの方でも合わせて周知を図ることによって相談窓口に繋げる努力をしております。

千葉委員長

はい、ありがとうございます。

そうですね。SNS 等新しい取り組みとして掲載されておりますが、是非力を入れていただければと思います。それでは自殺対策計画の見直し案についてはここまでにさせていただきたいと思います。

議事を続けます。議題の4の意見交換になります。

ここまでで話足りなかったようなことがありましたら、貴重な機会ですので、意見交換をしていただけますでしょうか。どなたでもご発言いかがでしょうか。

（４）意見交換

浅野委員

自殺そのものが減るのかどうかは置いておきまして、不登校の子が大変多いのですが、同級生に会いたくないと大体皆そう言います。地域の中に居場所があり、人とできるだけコミュニケーションがとれるような社会を作るのが原則だと思います。今、公園の遊具がどんどんなくなっているのはご存じと思いますが、もうジャングルジムを取り払うと言っておりまして、それはなんでかと言うと、公園を管理する側が管理できないからだ。だから、子供達が外で遊ばなくなった。ゲームばかりやっているんですね。生物学的にゲームばかりやると死にたくなる。外で遊んでいる子が優位に死にたなくなるといのは統計上分かっています。外で飛び回っている子が死にたいというのはめったにいません。引きこもってゲームをやっている子が段々段々暗くなる。ではゲームをやめろという訳にもいきませんので、この辺の対策をしないと子供の自殺はまだ増えるのではないかと本当は思っています。

ついでに余計なことかも知れませんが、ちょっと参考に言いますと私は実は農業も少しやっています。たまに子供達をジャガイモ掘りとかに呼ぶのですが、障害のある子とない子がいるんですね。子どもたちに勝手にやらせていると、水遊びがあつという間に始まるのですが、しばらくしていると子供たち、学年も違うし年齢もみんな違うのですが、なんとなく組織化してくるんですね。指示など一切出しません。（水を）汲む子と水を撒く子と、泥遊びをする子と何となく役割分担ができています。見ていて一番驚くのは障害のあると思われる子と健常と思われる子の区別がつかなくなります。だから、結局、枠組みが差別を作るといふそういう印象を抱きます。

いずれにしても石垣理論をご存じだと思いますが、均一な石よりも色んな石を組み立てていくと、地震に強くなるというのがあります。色々な人たちが集まるような環境と、外で運動させるような環境がないとあまり良くならないんじゃないかという印象を持っています。

千葉委員長

ありがとうございます。非常に大事なところをご指摘いただきました。区分けをして色々な対策をするよりも、むしろ自由に子どもたちが繋がっていくような試みの方がおそらく防止効果が期待できるというお話だったと思います。逆に言いますと今回の重点施策ではないのですが、引きこもりに対する対策が、自殺予防にとって重要とも言えると思います。中年あるいは高年になってからの引きこもりも社会問題になっております。

事務局（小倉課長）

千葉市で「ひきこもり地域支援センター」という事業をやっております。様々な相談に応じており、なかには自殺まで紙一重というような深い悩みを持った方からの相談も寄せられていると聞いております。ひきこもり地域支援センターに多い相談としては、親御さんからの相談から始まり、アウトリーチという形でご自宅に訪問してご本人にお会いをして、話ができる方はまだいいのですが、3年かけてもまだ突破しでなければ話ができない方などもいらっしゃるそうです。対応としてはなかなか時間がかかるし難しい。そしてどこをもって終了としたらいいのか迷うところもある。そのような声も聞かれています。ひきこもり地域支援センターにつきましても、まずは相談窓口があるよということを、さまざまな場面で継続して広く周知をしております。8050 問題に代表されるように、年齢がある程度上の方になりますと、引きこもりは家庭の恥であると言うふうと考えてなかなか相談につながっていかない。あるいは親御さんの年金が入って生活が回っているうちは、子供が引きこもっていても生活が出来るのであまり問題視していない。引きこもっている息子・娘が癪癪を起して辛い思いをするからということで積極的に介入せず我慢している方など、様々いらっしゃるようです。国の方で昨年又は一昨年に実施した実態調査結果などから推測しますと、千葉市でも 8,000～9,000 人は引きこもりの方がいらっしゃると思います。ただ、特にコロナの影響で引きこもり状態、本当に他者との接点がなくなっているというだけで、本当に生活の問題までいっていない、専業主婦の方とかで、他の人と直接会って話していないという方もどうやら数として引きこもりに入っていたようですので、行政の支援が必要な方が 8,000～9,000 人のうちどの程度になるかというのはありますが、引き続き相談窓口がありますよ、気楽に相談してくださいという周知を続けて、積極的に PR していきたいと考えています。

千葉委員長

ありがとうございます。コロナ禍で、言わば国民全部が引きこもっていた時期があり、それが出かけるようになってきましたけれども、本来の引きこもりの方々との明暗がこれからはっきりしていく時期になるのかなと思います。ネット依存等の色々な問題も出てきていると聞いています。事態の変化にすぐ対応していただければと思います。

渡辺委員

老人クラブ連合会の渡辺です。老人クラブ連合会の加入団体数ですが、千葉市内のクラブ数は 70 クラブぐらい、人数は 3,000 人ちょっとです。コロナの影響もあり年々下降してきており、組織化がしづらくなっています。先ほど木之内委員の話にあったように、高齢になり仕事を退職されて地域デビューがなかなか果たせない方もおります。先程のアンケート調査の中で、比較的年齢の高い方々の回答率が結構高かったとあるのですが、人によってかなり格差があると思います。ウェブに長けた方もいればやりたくても全然できないという方もいて、組織にも属さないで閉じ籠ってしまっている高齢者の方々にこういった相談窓口があるということを伝えていく方法について、先ほど千葉市でも SNS とかホームページ等という話がありましたが、今申し上げたように全ての方がそこを見ているわけではないので、組織に属していない方々に対しての相談窓口の案内というのもご検討いただければなというふうに考えております。以上です。

木之内委員

民生委員の木之内です。

21 ページの死にたいといった WEB アンケートのところで、「相談窓口を知っていますか？」という問いに対しての回答の表ですが、正直言って自殺関連でこれだけの窓口があるということを実は今日初めて認識しました。拝見させていただいて、例えばこのそれぞれの相談窓口で、このようなケースの時はここがベストとか、そういうまとめたものはありますでしょうか。あれば教えていただきたいなと思います。

15 ページの居住区別では、美浜区がトップの 25.6%で、緑区は 12.4%となっています。多分、この数字を高い順に並び替えると都会・大都会に近いところほど、WEB 回答率が高かったのかなと思います。緑区や若葉区のいわゆる農村地帯は高齢化が非常に進んでいる区ですから、WEB を見ない方が多いのではと思います。また、市内在勤在学が 61 とありますがこれはどういう意味ですか。

事務局（小倉課長）

まず WEB アンケートの居住区の話ですが、1,512 人の内訳ということでそれぞれ書いてあります。緑区は 187 で 12.4%となっていますが、6 区の中で緑区が一番人口が少ないというのがありますので、農村地帯だからというだけではないのかなと感じております。ちなみに緑区は鎌取、おゆみ野地域やあすみが丘等、新興住宅がかなり多いので、おそらく 6 区の中でも高齢化率はあまり高くない地域だというふうに思います。うろ覚えで申し訳ないのですが、若葉区や花見川区の古い団地がある所などで高齢化率が高かなり上がっているといった状況だったかと記憶しております。

あと市内在勤在学ですね。こちらは千葉市には居住していないけれども、千葉市内に勤めている、千葉市内の学校に通っている、そういった方でも回答することが可能となっております。

続きまして各相談窓口ですが、やはり窓口によって得手不得手や特徴が確かにあるにはあります。ただ

し、それを一概に「こういうものについてはこちらですよ」とはっきりとどこまで言えるのかというのはなかなか難しいところがあります。それぞれの窓口で相談にのっている相談員さんの知識スキルがどの程度あるのか、あるいはどういった部分の知識が深いのか、他団体との繋がりがいいのかなどによって千差万別になってくることが考えられます。まずはとにかくお話を聴くというところから始まり、例えばそこから定期的に仲間同士のサークルに参加したいという希望がある。あるいは精神科医療についてより詳しい話を聞きたいとか、そういったところで枝分かれをしていく形になるのかなと思います。ただし、複数のところで何度も何度も同じお話をさせていただくというのやはり避けなければならないところですので、可能な範囲で大体こういったところはこういうところに相談されるといいですよというのをホームページなどで周知していければと思います。

千葉委員長

ありがとうございます。今の話ですが、まあホームページの場合どこまで書けるのか難しいところもあるかと思いますが、ゲートキーパーさん等で意識が高く、できるだけ有効な相談先を紹介したいと言うような人たちに届くような情報を何か工夫していただけるとありがたいと思います。

大槻委員

今のお話の続きになってしまうと思いますが、私ども「こころと命の相談室」について多分ご覧になっていたとは思いますが、実は今日ポスターを持ってきましたので、これを皆さんに配布させていただこうかなと思っています。

私どものところは本当にありとあらゆる相談を受けております。相談の内容はもう「よろず相談」に近いほど色々な相談がきます。引きこもりの方もいらっしゃいます。本当にびっくりするのですが、初めて相談に来ました、7年間引きこもっていましたとか、一人で住んでいてコンビニには買物に行きますという方から本当に全く外に出ていない方までいらっしゃいます。見るからに引きこもっていたという方、拝見したらすぐ分かります。やはり独特の表情であったり、社会性のところをもう一度学び直していかなければいけないような状態なんだと分かりますが、そういう方でも次の約束をして一ヵ月後にまた自分で来られる方もいます。最初は両親と来ましたが、兄弟と来ましたが、本当に一言もしゃべらない方も、回を重ねていく中で、自分1人で来れるようになって、そしてアルバイトのような仕事から入って、もう少し長い時間働けるようにと繋がっていく人も、数えたら本当に何十人か何百人になるぐらいの数になってしまうのではないかと思います。なので、まずはどこかに繋がっていくことが大事だと思いますので、そのどこかに繋がるところが抜けないように、本当になかなか難しいと思いますが、本当に取りこぼさないようにやっていけたらいいなと思います。ありがとうございます。

千葉委員長

ありがとうございます。自殺者数は景気の動向に大きく影響を受けているわけですが、労働基準監督署の石井委員代理、労働の方から見ますといかがでしょうか？

石井委員代理

はい。労働基準監督署の石井と申します。労働側という点で言いますと、自殺に繋がるのが一つは過重労働、それとメンタルヘルス、ハラスメント等が多くを占めているといったところになってくるかと思っています。

監督署としましては労働時間に関しましては、この数年だんだん労働時間規制が厳しくなっており、上限規制がかかり、2024年には今猶予を受けている自動車運転者や建設の関係等も時間外の労働時間に関して上限がかかるような形になってきます。そういった意味では長時間労働からくる自殺という部分に関しては減ってくるのかなと考えております。

ハラスメントについては相談窓口を設けることが全ての規模の企業で義務付けされました。メンタルヘルスに関しては、これは強い義務付けがまだなされていないところですので、企業にどれだけ意識してもらえるかというところにかかってしまっているのかなというところが今感じているところです。

千葉委員長

ありがとうございます。

ご意見を沢山いただいて参りましたが、時間も予定の時間となってまいりました。議題4の意見交換については以上でよろしいでしょうか。では続きまして次の議題にまいります。4のその他ですが、委員の皆様から何かございますか。宜しいでしょうか。では、次第の4その他を終了させていただきます。以上で本日の議事は全て終了いたしました。事務局におかれましては本日の会議で出ました質問やご意見等を参考に実効性のある対策を進めていただければと思います。

では進行を事務局のほうにお返し致します。

事務局（小倉課長）

皆様、本日は沢山のご意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

議題の説明の中でも少し触れましたが、次回8月頃に第2回協議会を書面にて開催し、最終的な計画案

をお示しさせていただくことを予定しております。その後9月に計画を正式に決定し、10月から施行する予定です。

当初、音声等に不具合がありましたことを深くお詫びいたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございました。